



2026 年 10 月 27 日

株式会社アドバンスト・メディア

携帯電話で話すだけ。AI が「その先の仕事」を自動的に実行 法人向け新ソリューション「AmiVoice® Mobile Genie」を提供開始 ～無意識の AI 活用を推進し、会話を企業のデータ資産へ～

株式会社アドバンスト・メディア（本社：東京都豊島区、代表取締役会長兼社長：鈴木清幸 以下、アドバンスト・メディア）は、普段通り携帯電話で話すだけで、AI が通話内容を認識・分析し、適切な後続業務を実行する新ソリューション「AmiVoice Mobile Genie（アミボイス モバイル ジーニー）」の提供を、2026 年 11 月 2 日（月）より開始します。

いつものように通話するだけで、AI が後続業務を自動的に実行



「AmiVoice Mobile Genie」は、携帯電話の通話を国内シェア No.1^{※1} の AI 音声認識 AmiVoice でテキスト化し、生成 AI による分析や各種業務システムとの連携を通じて、会話内容に応じた後続業務を自動的に実行するソリューションです。専用アプリの操作や AI へのプロンプト入力を必要とせず、商談内容の要約、CRM/SFA への情報連携、スケジュール登録、メールの下書き作成、カスタマーハラスメント・コンプライアンスチェックなど、通話後に発生するさまざまな業務を支援します。

従来、担当者個人の記憶やメモにとどまりがちだった携帯電話の通話を、組織で共有・活用できるデータ資産へと転換することが可能です。

■開発の背景

近年、生成 AI の業務利用が急速に拡大する中、生成 AI の活用方針を定めている日本企業の割合は 68.9%（前年 49.7%）にのぼり、活用が本格化しつつあります。^{※2} 一方で、生成 AI を実際の業務の中に定着させ、組織的な価値創出につなげることが新たな課題として顕在化しており、AI を意識せず日常業務の中で自然に利用できる環境づくりが求められています。

そのような中、法人携帯電話市場のスマートフォン契約数は1,680万件を超え^{※3}、営業活動や顧客対応、現場業務など、企業活動を支える重要なコミュニケーション基盤として広く普及しています。しかし、Web会議やコンタクトセンターでは会話データの活用が進む一方、携帯電話による通話は依然としてAI活用の余地が多く残されているのが現状です。

こうした背景を受け、当社は約30年にわたり培ってきた国内シェア No.1^{※1}のAI音声認識 AmiVoice と、CTI分野の技術基盤・ノウハウ、そして生成AI技術を融合した新ソリューション「AmiVoice Mobile Genie」を開発しました。

コンタクトセンター領域で培った会話データ活用のノウハウを法人携帯電話領域へ展開し、企業活動における新たなAI活用を推進します。

■「AmiVoice Mobile Genie」の主な特長

1. 普段通り通話するだけで、AIが後続業務を自動的に実行

ユーザーは普段通り携帯電話で話すだけで、「AmiVoice Mobile Genie」を利用できます。専用アプリの操作やプロンプト入力はい必要なく、AIを意識せずに、日常業務の中で活用することが可能です。

2. 既存の法人携帯電話環境を活用

電話番号やキャリア^{※4}、従来の業務フローを変えることなく導入できます。現場の負担や教育コストを抑えながら、誰もが自然にAIを活用できる環境を整備します。

3. 通話内容をAIが認識・分析し、適切な後続処理を実行

AI音声認識 AmiVoice が通話内容をテキスト化し、生成AIが会話の種類や文脈を分析します。あらかじめ設定された処理内容に基づき、会話の内容に応じた後続業務を自動化することが可能です。

4. 携帯電話の通話を、組織で活用できるデータ資産へ

従来、担当者個人の記憶やメモにとどまっていた顧客との会話を、検索・共有・分析可能なデータとして蓄積し、組織全体のデータ活用を促進します。

5. セキュアな運用環境を実現

顧客との会話など、機密性の高い通話データを安全に活用できる運用環境を提供します。企業の会話データを安心して蓄積・活用することが可能です。

■主な活用例

・商談内容の要約・CRM/SFA連携

顧客との商談内容を要約し、案件情報や対応履歴としてCRM/SFAへ連携します。担当者による手入力の負担を軽減し、商談情報の迅速な共有を支援します。

AmiVoice
Speech Visualizer

ホーム
通話検索
レポート

AI 通話分析

1.コールリーゼン分類と要約

【カテゴリ】
商談

【分類判定理由】
Mobile Genieの見積もり内容確認、台数変更対応、提案・見積書提示のための訪問日程調整を行っており、契約に向けた営業活動が主目的であるため。

【相手先】
会社名：タナカ商事
担当者：タナカ様、サトウ様(上司)

【用件】
- Mobile Genieのお見積もり内容の確認
- 訪問商談の日程調整

【顧客の課題・ニーズ】
- 携帯電話での会話を分析したい
- 教育ツールの情報を取得したい

【顧客からの要望・質問】
- 利用予定端末台数を50台から80台に変更
- 訪問商談に上司のサトウ様も同席させたい
- 候補日程を複数提示してほしい

【営業側の回答】
- 80台でお見積もりを作成する
- Mobile Genieで顧客の課題に対応可能
- 訪問にて提案内容を案内する
- 10月27日11時-12時、または10月28日14時-15時を提案

【決定事項】
- 端末台数：80台
- 訪問商談日時：10月27日(顧客側で大丈夫そうとの回答)
- 訪問場所：池袋支店
- 商談参加者：タナカ様、サトウ様(上司)
- お見積もりと提案書を商談日まで用意

・スケジュールへの予定登録

通話中に決定した訪問日時や打ち合わせ予定などを抽出し、スケジューラーへの登録を行います。

・メールの下書き作成

通話内で発生した資料送付や確認事項への回答などをもとに、フォローメールの下書きを作成します。

・カスタマーハラスメント・コンプライアンスチェック

通話内容を分析し、カスタマーハラスメントの可能性や、コンプライアンス上の確認が必要な表現・会話を抽出します。管理者による状況把握や、対応方針の検討を支援します。

AmiVoice
Speech Visualizer

ホーム
通話検索
レポート

0:00.0

OUT 08078285629

お世話になっております。アドバンスメディア証券のヤマダです。タナカ様のお電話でお間違いないでしょうか。

はい、合っています。5分しています。

タナカ様、お世話になっております。少しお話しさせていただいてもよろしいでしょうか。

はい、10分ぐらいならいいですよ。

ありがとうございます。早速なんですが、今がチャンスの商品があるんですけど、

タナカ様に特別にご案内したいと思っております。

そうですね。興味はありますが、どんな商品ですか。

通話情報 (第1部 - 最初)

基本
通話内容

2.カスハラチェック
■カスハラ判定
なし

3.コンプライアンスチェック
■コンプラ違反
あり

【理由】
・リスク説明を求めた顧客に対して具体的なリスク説明を行わず「大丈夫ですよ」とのみ回答し、重要事項説明を欠落させている
・「経験上、今持っているのは間違いない」という過去の事例の提供に頼るような表現を使用している
・「今後新しいと購入機会を逃す」「14時までには検討」など暗黙的契約を結んで顧客の利益を脅かせるような勧誘を行っている

【危険発言】
・「経験上、今持っているのは間違いない」と考えています
・顧客「でもリスクについては詳しく教えてほしいん

コメント
記録
記録
記録

2.カスハラチェック
■ カスハラ判定 なし
3.コンプライアンスチェック
■ コンプラ違反 あり 【理由】 ・リスク説明を求める顧客に対し、具体的なリスク説明を行わず「大丈夫ですよ」とのみ回答し、重要事項説明を欠落させている ・「経験上、今持っていれば間違いない」という断定的判断の提供に該当する発言がある ・「今契約しないと購入機会を逃す」「14時までに検討」など、時間的制約により顧客の判断を急がせる強引な勧誘手法を用いている 【根拠発言】 ・OP「経験上、今持っていれば間違いないと考えてます」 ・CU「でもリスクについては詳しく教えてほしいんですけど」に対し、OP「大丈夫ですよ。今契約しないと購入機会を逃すかもしれません」 ・OP「もう一つご案内すると、今決めていただければ、さらに有利な条件で購入できるんです」 ・OP「14時までにご検討いただくことは可能ですか」 【想定されるリスク】 ・金融商品取引法違反(断定的判断の提供、不適切な勧誘行為) ・適合性原則違反の可能性 ・顧客からの苦情申立てや監督当局への通報リスク ・行政処分や業務改善命令の可能性

■「AmiVoice Mobile Genie」製品サイト

<https://www.advanced-media.co.jp/lp/mobilegenie/>

アドバンスト・メディアは、「AmiVoice Mobile Genie」の提供を通じて、携帯電話で交わされる会話を新たな資産へと転換し、企業の生産性向上と会話データ活用を支援します。今後も AI 音声認識 AmiVoice と生成 AI を融合したソリューションの提供により、人と AI が自然に協働し、誰もが当たり前 AI を活用できる社会の実現を目指してまいります。

※1 出典：合同会社 ecarlate「音声認識市場動向 2026」音声認識ソフトウェア/クラウドサービス市場（2025 年度見込）

※2 総務省「令和 8 年版 情報通信白書」（2026 年 7 月）

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r08/pdf/n1210000.pdf>

※3 MM 総研「法人スマートフォン導入・利用実態」調査 <https://www.m2ri.jp/release/detail.html?id=728>

※4 ドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイルの通話録音サービスに対応しています。楽天モバイルはご利用いただけない機能があります。

以上

【会社概要】＜株式会社アドバンスト・メディア＞

代 表 者： 代表取締役会長兼社長 鈴木 清幸
 本 社： 東京都豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン 60 42F
 U R L： <https://www.advanced-media.co.jp/>
 設 立： 1997 年 12 月

資 本 金 : 69 億 3031 万円 (18,392,724 株) (2026 年 6 月末現在)

事 業 内 容 : ◆企業および企業内のユーザーや一般消費者へ AI 音声認識アミボイスをサービス利用の形で提供する「サービス事業」
◆AI 音声認識アミボイスを組み込んだアプリケーション商品をライセンス販売する「プロダクト事業」
◆AI 音声認識アミボイスを組み込んだ音声認識ソリューションの企画・設計・開発を行う「ソリューション事業」

1997 年に設立。Interactive Systems, Inc. (米国) と日本語音声認識 AmiVoice を共同で開発し事業化。2005 年には、音声認識専門の企業として初の東京証券取引所マザーズ市場 (現 : グロース市場) に上場し、音声認識事業で日本で初めて通年ベースで黒字化を達成しています。

「HCI (Human Communication Integration) の実現」をビジョンに掲げ、人が機械に自然に意思を伝えられる「ソフトコミュニケーションの時代」を拓くべく、音声認識ソフトウェア・クラウドサービス市場シェア No.1 (出典 : 合同会社 ecarlate「音声認識市場動向 2026」(2025 年度見込)) の音声認識 AmiVoice を主軸にした事業を展開。会議、医療、コールセンター、建設・不動産、物流・製造などの領域特化型エンジンとして、幅広いシーンで活用されています。

【本件のお問い合わせ】

報道関係
経営推進本部 広報グループ ・ TEL : 03-5958-1307